

アルジェリアの城戸ザイラさん

私はコスモポリタン

NPO法人UAMAA地中海・アラブ・アフリカ支援ユニオン 代表 城戸ザイラさん



▲写真は全て「AFRICAN FESTA 2009」

日本にいらっしゃったきっかけは？

主人(日本人)とパリで出会ったことです。日本に関しては、小学校6年生の時に、社会科で広島原爆のことを学び、ショックを受けました。しかし、その時は誤解をして、日本が他国にそういうことをしているんだと思い込み、絶対に行きたくないと思いました。後で、広島は日本にあるのを知りました。高校の時には、日本文学に興味を持ち、図書館で島崎藤村の「家」という本に出会いました。日本の家族とイスラム圏の家族がすごく似ているというのが印象に残りました。

これまでどういう国で過ごされたんですか？

アルジェリアはフランスの植民地だったため、ライフスタイルもヨーロッパと全く一緒。イスラム圏だけど自由、そういう国に育ちました。そして、フランスや日本に長くいましたから、私はアイデンティティーをいっぱい持っています。今の活動(英語講師やNPO活動)も、何でも屋さんといってもいいほどです。オリジナリティー(私の個性)はひとつと言うのではなく、私はコスモポリタン(国際人)かもしれません。



日本に来て驚いたことは？

バスが時間通りに来ることにすごく驚きました。また、当時の日本は世界一安全な国でした。海外、特にアフリカ

やヨーロッパは、夜は危険で、子どもは暗くなる前に帰らなければ家族に叱られてしまいます。日本でも苦労はいっぱいありましたが、すべて勉強と思っています。苦労しないと前には進めない。花は必ず咲くと信じて、苦労と思わずにいます。

日本語の習得は？

特に学校には行っていません。1日8時間本を読んで、1年くらいかかって日本語を学びました。あとはテレビかな。「まんが日本昔ばなし」が大好きです。家族とはフランス語でコミュニケーションをとります。

これまで日本でどんなお仕事をされましたか？

以前住んでいた愛知では、県から派遣されて、有名な進学校で帰国子女のお世話や補習を行いました。優秀な学生が多かったです。その後、愛知県立大学で教えたあとパリに移り住み、また日本に戻った時に、論文審査を経て「なごや民間大使」に任命されました。次に、在日アルジェリア大使館に総領事としてスカウトされました。現在は、自宅で子どもたちに英語を教えています。彼らは外国のことにとても興味を示します。本や文房具のない外国のお友達の話をする、自分のものをわけてあげたいと言ってくれます。

NPO法人UAMAA(“ウンマ”=地中海・アラブ・アフリカ支援ユニオン)について

アルジェリアに帰るたびに、私の子どもたちが退屈そうにしていたので、その理由を考えました。そして、アフリカでは図書館や公民館・児童館や公園さえも十分でないことに気づいたのです。私の知っている図書館にはたった2冊の本があるだけで、「貸出し」はできないし、たくさん子どもたちが本を読む順番を待っています。なぜって、国には図書館を建てたり、十分に本を揃えたりする経済的な余裕がないからです。とても寂しく悲しい気持ちになりました。

一方で、私が名古屋で民間大使をしたとき、たくさんの日本の子どもたちと会う機会を得ました。みんな恵まれていて、生きるための楽しさや希望があると感じました。同時に、アフリカのことはよく知らないんだなあとも…



そこで、自分ができることは何かと考えて、NPO法人UAMAAを立ち上げることにしました。図書館を充実させるために本を送ったり、日本のみなさんにそれらの地域の現状を知ってもらう活動を始めました。

このような活動に興味がある方、参加してみたい方、是非一度私たちにコンタクトしてみてください！

国際交流は大人になって急にできるものではなくて、子どもの頃から「見て・聞いて・触れて」感じるものだと思います。そして、コミュニケーションにはやはり手段が必要ですから外国語ができることはステキなことでしょうか？そして自分と異なる文化を持つ人達がいいて、それを知って、認め合い理解しようとするのが第一歩ではないでしょうか。そうしたら自分の国ももっとわかりますよね。

(取材、文：編集ボランティア 青柳尚子・日地谷美樹)

お問い合わせ先

「NPO法人UAMAA地中海・アラブ・アフリカ支援ユニオン」
http://www.uamaa.org/